

2017年度 GRIPS 開発フォーラム勉強会

ベトナム産業人材のマインドセット改革～その理論と実践例～ (日本・トヨタ経験にもとづくベトナム人専門家による日本語講演)

本年もどうぞ宜しくお願いいたします。この度、GRIPS 開発フォーラムでは、途上国人材のマインドセット改革に理論と実践で挑んでいる、新進気鋭のベトナム人研究者をお招きして、勉強会を開催いたします。「アジア知日産業人材を担い手としたネットワーク型開発協力の有効性」研究(科研基盤研究C)の一環として行うものです。

ゲン・ダン・ミン氏は、日本に留学してエンジニアリングを学び、トヨタ本社生産技術本部勤務を経てベトナムに帰国後、ベトナム国家大学経営学部で副学長をつとめるかたわら、2015年に「GKM Lean Management Institute」を立ち上げ、日本型ものづくりをベトナムに根づかせるための理論研究と企業実践に精力的に取り組んでいます。

ミン氏は、日本やトヨタの経験を通じて、日本型ものづくりのコア部分はマインドセットであり、この要素なくしては、個別ツール(5S、カイゼン、QCC、作業手順、見える化、自動化等)をいくら導入しても持続性がないとの信念をもつに至りました。そして、ベトナムの企業文化に適した方法でマインドセット改革を行う方法を理論化し、製造業や教育訓練組織などの現場で実践し、目に見える成果をあげつつあります。

勉強会では、ミン氏に、①彼の理論の要諦である、マインドセット(同氏の造語で「タム・テー(Tam The)」)の概念について説明いただくとともに、②ケーススタディとして、ベトナム現地最大の自動車組立企業(チュンハイ社:マツダ、Kia の委託組立も)、訪日前技能実習生を対象とした日本語研修・訓練機関(ハイフォン社)、銀装飾品製造企業(ジュリーサンドロウ社)における取組を紹介していただきます。

日本は長年、海外の生産拠点や途上国への産業協力において、5S やカイゼン等の普及を支援してきました。企業文化が異なる海外で、日本で当然視されているマインドセット要素をどうすれば定着させることができるのか。製造業新時代を迎えて、今後、日本型ものづくりのコア要素をどのように位置づければよいのか。ミン氏の理論と実践は、こうした問いかけに挑むもので、途上国企業支援にかかわる関係者にとって非常に画期的な取組だと考えます。ご関心のある方はぜひご出席頂きますと幸いです。



【ミン氏の経歴】

・ベトナム国家大学経営学部副学長、及び GKM Lean Management 会長。ハノイ工科大学を卒業後、日本に留学して自動車整備士専門学校(ホンダ テクニカルカレッジ 関東)、続いて東京大学工学部で修士取得。その後、トヨタ本社に勤務しながら(7年)、名古屋大学経済学部で博士号を取得。
・2011年にベトナム帰国後は、日本型ものづくりをベトナムに根づかせるための理論研究と企業実践に取り組んでいる。著書に『ベトナムにおけるリーンマネジメント:成功への道』(ハノイ国家大学出版、2015年、ベトナム語)。

■日時: 2018年1月24日(水) 18:30~20:30 (18:00 受付開始)

■会場: 政策研究大学院大学(GRIPS) 4階 研究会室 4A

〒106-8677 東京都港区六本木 7-22-1

・都営大江戸線 六本木駅 徒歩 5分

・東京メトロ日比谷線 六本木駅 徒歩 10分

・東京メトロ千代田線 乃木坂駅 徒歩 6分

地図: <http://www.grips.ac.jp/jp/about/access/>

■言語: 日本語

■プログラム:

○本勉強会の趣旨説明——政策研究大学院大学(GRIPS)大野 健一

○ご講演

「ベトナム産業人材のマインドセット改革～その理論と実践例～」——ゲン・ダン・ミン氏

(ベトナム国家大学経営学部副学部長/GKM Lean Management Institute 会長)

○質疑応答

■お申し込み方法/お問い合わせ:

お名前、ご所属先、ご連絡先(メールアドレス)を記載の上、1月19日(金)までに GRIPS 開発
フォーラム・鶴田(s-tsuruda@grips.ac.jp)までメールにてお申し込みください。

※当日お車で来越しになる場合は、本学のセキュリティの関係上、事前に車種・お車の色・
ナンバーをお知らせください。